

2. どうやってサケを増やすの? ① 卵を採る

(1) 人の手でサケを増やすために

川を上るサケは、川底にメスが産卵し、オスがそこに精子をかけて子孫を残します。

ただ、そうした自然だけにまかせておくと、サケの数がずっと少なくなります。

そこで、人の手でメスから卵を採り(採卵)、オスの精子をかけて受精させ、サケの子を増やしています。卵は、すばやく、しかもやさしく、ていねいにあつかわないと、うまく子どもがかえりません。(写真は、札内さけますふ化場)



ちくようち 蓄養池(※2)。ここでサケが成熟するのを待ち、網で集めて成熟したものを選ぶ。

川で行われた大きな工事

川に上る くだんの書い

川に上る 農業

川に上る 漁業や工業



①成熟したサケを選ぶ。



②サケは採卵する小屋へ送られる。



③サケの卵を採る小屋の中。



④メスの腹をさいて、卵を採る。



⑤サケの卵。



⑥卵が集まったところで…



⑦卵にオスの精子をかけ、ていねいに混ぜたあと、きれいな水に入れて受精(※1)させる。

参考

「水産総合研究センター さけますセンターのホームページ」
<http://salmon.fra.affrc.go.jp/>
 「サケ・HTBまめ本60」 木村義一 著、北海道テレビ放送、1998

協力・問い合わせ

社団法人 十勝釧路管内さけます増殖事業協会 0155-25-0722
 独立行政法人 水産総合研究センター さけますセンター 帯広事業所
 0155-64-5221

※1 受精(じゅせい): 大まかにいって、オスとメスのある生物において、オスの生殖細胞(せいしよくさいぼう: 精子など)とメスの生殖細胞(卵など)が合体すること。
 ※2 蓄養池(ちくようち): サケが、卵を産めるようになることを成熟(せいじゅく)とい

い、つかえたサケが成熟するまで生かしておくことを蓄養(ちくよう)という。その蓄養のための池。
 ※3 養魚池(ようぎょち): ふ化したばかりの仔魚(しぎよ・※4)が育つための池。仔魚